

平成25年度 赤穂市立塩屋小学校 学校関係者評価

学校名 赤穂市立塩屋小学校

1 本年度の学校経営方針

(1) 教育目標

ともに学び、仲良く遊ぶ児童を育てる～支え合い、学び合う学習集団を目指して～

(2) 校 訓

【明く】

【清く】

【強く】

めざす学校像

- 1 保護者・地域とともに歩む学校
- 2 安全・安心の保障された学校
- 3 環境が整備されたうおいのある学校

めざす児童像

- 1 友を理解し、認め合える子
- 2 真剣なまなざしで学習に臨む子
- 3 元気に外遊びができる子

めざす授業像

- 1 全員の授業参加がある授業
- 2 児童同士の関わり合い・支え合いがある授業
- 3 学び合いのある授業

求める教師像

- 1 とことん児童に関わり続ける教師
- 2 常に授業の向上を目指す教師
- 3 児童の人権を大切にする教師

(3) 学校経営の基盤とするもの

- ・ 人権尊重の精神に立つ学校づくり
- ・ 全ての子への学力保障
- ・ 安全・安心の確立された学校づくり
- ・ 保護者・地域と共に歩む学校づくり
- ・ 職員の育成

(4) 重点課題

① 保護者・地域と連携した教育の推進

- ・ 保護者・地域住民の学校運営への参画
- ・ 学習ボランティアの参加
- ・ 学習成果の発信
- ・ 学校評価・保護者アンケートの教育活動への反映

③ 配慮を要する児童への対応

- ・ 児童の背景の理解
- ・ 実態に応じた支援・指導の計画
- ・ 保護者との意思疎通
- ・ 常に「気かけ」「目をかける」意識

⑤ 児童の規範意識・マナーの向上

- ・ きまりを守ろうとする意識
- ・ 公共物や施設を大切にできる態度
- ・ 相手を大切にできる言葉遣い
- ・ 行儀・礼儀の指導

⑦ いじめ・不登校の解消

- ・ 第三者委員会提言の実践
- ・ 未然防止のための取組
- ・ 早期発見・早期対応・組織としての対応
- ・ 家庭との連携指導

② 授業づくり・学級づくりの充実

- ・ 全員が意欲をもって参加できる授業づくり
- ・ 学び合いのある授業づくり
- ・ 児童主体の授業づくり

④ 特別支援教育の充実

- ・ 職員の理解と実践力の向上
- ・ 校内指導・支援体制の確立
- ・ 関係機関との連携による支援体制と支援方法の研究実践
- ・ 保護者・地域への啓発

⑥ 危機管理意識・管理体制の確立

- ・ 安全配慮義務の徹底
- ・ 防災体制・防災意識
- ・ 地域安全体制の確立
- ・ アレルギーへの理解と対応の体制

⑧ 学校組織マネジメントの強化

- ・ 教育目標・重点課題の共有化
- ・ 学校評価を生かした学校運営
- ・ 成果の共有化
- ・ 職員の協働体制
- ・ 学校業務改善

【総合的な学校関係者評価】

- 管理職のリーダーシップが良好で、学校運営もよい状況である。
- いつ訪問しても明るい塩屋小学校の雰囲気を感じる。
- 地域行事の会場となることも多いが、その度に環境が整備されており、地域の交流に大きく貢献している。
- 保護者・地域との連携について、今後ともPTAや地域の団体と良好な関係を継続並びに強化し、遠慮なく学校への支援・協力を呼びかけていきたい。
- 地域・家庭・学校での相互理解をもって、挨拶の大切さや社会生活での意味を子ども達に教えていくことが必要である。
- 地区懇談会は学校・保護者と時間をかけて話し合いをする必要がある。
- 家庭環境が大事であり、保護者の研修・講演等を実施するなど、強い姿勢で臨んでいただきたい。

【学校関係者評価】

◎：適切である ○：ほぼ適切である △：あまり適切ではない ×：適切ではない

2 自己評価結果 (A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (実践の柱)	評価項目(学校・教師の取組 評価指標及び目標値(期待される姿))		評価資料	達成状況	改善の方策
①保護者・地域との連携	項目	児童の主體的な学びを尊重し、生涯学習社会を見据えた学校づくりに努めることができたか	児童アンケート 入学式 学級懇談会	B	○「学校にすることが楽しい」「自分のクラスが楽しい」という項目が、全校的に高い%であった。「いいえ」と回答した児童への声かけや関わりを大切に する姿勢を全教職員がもつ必要がある。 ○ 学級通信を活用し、学級の状況などを適切に発信することで、学級経営や保護者との関係づくりに努める。 ○ ホームページを迅速に更新することで、更なる開かれた学校作りを目指す。
	指標	学校に来ることが楽しいか	保護者アンケート		
	項目	各通信・オープンスクール・ホームページなどで情報を提供したり、保護者からの相談を受けたりすることができる開かれた学校づくりに努めたか	児童アンケート		
	指標	学校からの連絡を家の人に見せることができたか	保護者アンケート		
	項目	学びの機会を充実するとともに、家庭と連携して学習習慣を身につけるように工夫したか	児童アンケート 学級懇談会 個別懇談会		
	指標	家庭学習をして、提出物を出すことができたか	保護者アンケート		
②学習指導	項目	児童の実態に応じた学習課題を設定し、意欲を持って、自ら学び、自ら考える力を育成するように努めたか	児童アンケート 学級懇談会	B	○ 学年が上がるに従い、保護者の「児童が学校の勉強をわかりやすいと感じ、意欲的に学ぼうとしているか」という項目で「はい」という回答の数値が低くなっている。各学年での積み残しをなくし、各学年で身につけさせなければならない基礎基本の定着を徹底する必要がある。
	指標	楽しく学習し、勉強がわかりやすかったか	保護者アンケート		
	項目	基礎・基本的な内容を明確にし、評価の基準を定め、指導方法を工夫改善して理解の徹底を図ったか	児童アンケート 学力テスト等		
	指標	学習したことをまとめたり、発表したりできたか	保護者アンケート		
	項目	家庭学習の定着及び充実を図ることができたか	児童アンケート		
	指標	意欲的に家庭学習に取り組むことができたか	保護者アンケート		
③授業づくり・学級づくり	項目	子どもたちが主體的に授業に参加し、学び合い、高め合う中で、学びや育ちを大切に授業づくりができたか	児童アンケート 学級懇談会	A	○「学びのある学習ができたか」という項目で、100%に到達した学年があった。今年度は特に人権教育の研究成果でもある、友達同士が関わり合うことで、お互いを高め合うという成果が多く学年で見られた。更なる、児童同士の関わり合いを促すことで、自分も友達も大事にした学習ができるよう導いていく必要がある。 ○ 仲間作りの支援を行うと同時に、支援の必要な児童への個に応じた取組を共通理解することで、全ての児童が安心して過ごせる学級作りを目指す。
	指標	すすんで学習に参加でき、学びのある学習ができたか	保護者アンケート		
	項目	関わり合い、支え合う学習態度を育成し、認め合い、励まし合いのある学級づくりができたか	児童アンケート 保護者アンケート		
	指標	自分の学級が楽しいか	保護者アンケート		
	項目	教育的支援が必要な児童について、一人一人の教育的ニーズを把握して適切な支援ができたか	児童アンケート 個別の指導計画		
	指標	先生にほめられたり声をかけられたりしたか	保護者アンケート		

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
○	○	・「塩っ子だより」を回覧板で回覧するなどの方法を検討する。 ・平成26年度に市内で防災行政無線の設置が始まり、塩屋小学校に子局が設置される。防災行政無線で児童の声による下校時の見守りの呼びかけ放送をするなど、地域住民が児童への関心を強める活用方法を検討する。
○	○	・3年、4年の時期に勉強が分かりにくくなるにつれていけなくなる傾向があるので、この学年の数値を上げることで、学習意欲の向上につなげる。 ・復習・予習の習慣づけを家庭と協力しながら積み上げる。
◎	◎	・人権教育実践発表会での取組を強め、子ども自らつながり合う力を今年度以上に身につけさせていく。 ・いじめ等について、よりアンテナを高くし いじめ防止に努める。

(A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (実践の柱)	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料	達成状況	改善の方策
	評価指標及び目標値(期待される姿)				
④心の教育	項目	児童一人一人の実態を的確に捉え、全職員で共通理解して適切な指導を行うことができたか	児童アンケート 保護者アンケート	B	○ 児童に寄り添う支援を行ってきているが、まだまだ心が不安定な児童や困ったことがあった時に相談することが難しい児童もいる。児童同士の関わりを増やすためにも異年齢集団活動、学級活動の更なる充実を図ることで、児童間のよりよい人間関係作りに取り組む。そのための、研修の機会をもち教師の指導力向上を図る。 ○ 道德の研究会をもち、道德教育への教職員の指導力向上を図る。
	指標	困ったことがあったら相談することができたか			
	項目	人権教育を全教育活動に位置づけ、差別や偏見を解消するため実践力を培うよう努めたか	児童アンケート 保護者アンケート		
	指標	友達の下さやがんばりを見つけたことができたか			
	項目	全ての教育活動の中で道德性を培うように配慮し、道德実践力を育成するよう努めたか	児童アンケート 保護者アンケート		
	指標	道德の時間に学んだ事を生活で活かそうとしたか			
⑤生徒指導	項目	学級活動や学校行事に進んで参加し、学級や学校の諸問題の解決に努めるように指導したか	児童アンケート 運動会・音楽会 保護者アンケート	B	○ 「善悪を判断して行動しようとしたか」という項目が、他項目と比較したところ低い数値を示していた。「させる」生徒指導から児童の主体性をいかにした生徒指導への切り替えが必要である。 ○ 不登校の未然防止に努めるために、不登校対策委員会の更なる充実を図るとともに、校内体制の整備を確実に行う。 ○ 学校のきまりや約束など、生活指導委員会を中心にその時期に応じた物を話し合い、全職員共通理解して指導にあたる必要がある。
	指標	協力して活動したり、行事に参加したりしたか	児童アンケート 学級懇談会 保護者アンケート		
	項目	児童の実態を的確に把握し、生徒指導上の問題行動等を未然に防ぐよう働きかけるとともに、問題行動発生時には、適切に対応できたか	児童アンケート 保護者アンケート		
	指標	きまりを守り、正しい行動ができたか			
	項目	不登校に係る諸問題について、未然防止、早期発見、早期対応するとともに、早期解消に向け、保護者等との連絡を密にしながら、計画的に支援・指導ができたか	児童アンケート 保護者アンケート		
	指標	前向きで規則正しい生活を送れたか			
⑥児童をとりまく環境の整備	項目	道徳性の向上と規範意識の醸成に向けて、計画的に指導できたか	児童アンケート 保護者アンケート	A	○ 友達を「さん」づけで呼ぶなど、優しい気持ちで接しようとする児童が増えてきている。できていること、伸びていることを児童に伝え続けることで、よい習慣を定着できるように努める。 ○ 無言清掃に一年間継続的に取り組んできた結果、黙って一生懸命掃除をしようとする風土が育ってきている。清掃の仕方を全校集会や学年で具体的に指導するなど、掃除力向上に努める。 ○ 今年度も、地区の民生児童委員、主任児童委員および青少年育成推進委員会等の協力のもと、学校・家庭・地域の協力強化に努めた結果、問題行動の未然防止、再発防止に繋がっている。今後も関係機関との連携強化を継続的に努める。
	指標	善悪を判断して行動しようとしたか			
	項目	危険箇所、危険物の除去・改修等心がけ、清潔で衛生的な環境整備に努めたか	児童アンケート 保護者アンケート		
	指標	安全に心がけた生活でできたか			
	項目	教育活動を充実させるための教育的環境の整備に配慮し、研修内容を実践に活かし取り組んだか	児童アンケート 保護者アンケート		
	指標	掃除をしたり、整理整頓をしたりできたか			
	項目	友達に対して敬称をつけた呼び方をし、相手への嘲笑や侮辱、厳しい非難の言葉を解消するよう指導できたか	児童アンケート 保護者アンケート		
	指標	友達を「さん」づけで呼ぶよう心がけ、優しい気持ちで接したか			

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切ではない ×:適切ではない

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
○	○	・配慮を要する児童は多いが、関係する児童と保護者はもちろん、第三者への配慮も大切であるので、学校全体でケアする体制を整える。 ・心の中の思いを引き出すのはとても難しいことなので、幼児期からの育ちを保育所・幼稚園と共有し、生かしていく。
○	◎	・児童の実態を行事ごとや学級懇談会で伝え、今すべき大人の関わり方や態度を啓発する。
◎	◎	・大人の言葉遣いや態度が子どもの成長に大きく影響する。関わる先生・保護者の態度を見直していく。

【自己評価における特記事項】

○ケース会議や不登校対策委員会を必要に応じて開くことが職員の共通理解につながっている。
○生活目標や学級の規律など、教師の意識により子どもは変わる。継続した取組が必要である。
○なぜ「さん」づけで呼ぶとよいのかなど、ロールプレイなどをすることで、より分かりやすく具体的な指導をすることで、優しい気持ちで接することができる児童が増えてきたように感じる。

【項目以外の点で次年度への課題や具体的改善方法】

○ 来年度に引き継ぐ、つなぐことを考えた校務分掌運営、学級学年経営をしていくことが大切。(副の担当と共に・ファイリング、発表会を一つの学年になど)
○ 落ち着いた生活ができていの中で、骨折などのけがが多いので、個々の安全についての意識を高める必要がある。
○ じつりと学習に取り組む時間を確保(行事等に追われることが多かった)見直しをもって日々の実践に臨むことが必要。計画の見直し。